

# 中国語動詞の アスペクチュアルな意味の分析

杉山一也 / 劉綺紋

0. はじめに
1. 持続的局面
2. 過程的局面
  - 2.1. 有限過程の局面
  - 2.2. 無限過程の局面
  - 2.3. 有限結果の局面
3. 静態持続の局面
4. 点的局面
5. アスペクチュアルな意味による動詞の分類
6. おわりに

## 0. はじめに

中国語動詞のアスペクトに関する先行研究には、ヤーホントフ 1957, 马庆株 1981, 荒川 1985, 荒川 1986, 陈平 1988, 郭锐 1993 などがある。

そのうち、ヤーホントフ 1957 は動詞を非動作動詞と動作動詞（有限動詞，無限動詞，状態の意味を有する動詞）の計 4 種類に分類している。また，陈平 1988 は中国語の動詞の局面を分析する際に，static, durative, telic という概念を用い，中国語の動詞を state, activity, accomplishment, complex change, simple change という 5 種類に分類している。しかし，この両者は動詞とア

スペクト諸形式との関わりによって動詞を分類した研究ではない。そのため、例えば、ヤーホントフ 1957 は、有限動詞の概念と点動詞の概念とを区別していない。また、陈平 1988 は、それぞれの動詞の中の局面間のつながりを考慮していないため、動詞は局面ごとに分類されることになり、一つの動詞が複数の種類に分類されている。

中国語動詞とアスペクト諸形式との関係によって動詞を分類した研究に、马庆株 1981、荒川 1985、郭锐 1993 がある。

马庆株 1981、荒川 1985 は、いずれも時間補語や“著”を用い、動詞のアスペクチュアルな意味を分析している。しかし副詞“在”やアスペクト助詞“了”と動詞との関わりについての考察はほとんどなされていない。郭锐 1993 はアスペクト諸形式を使った分析方法をとり入れてはいるが、ただし局面の「始発点」「持続」「終結点」という三つの要素の有無しか分析対象としておらず、その他の要素については触れていない。従って、これらの論文は、動詞の局面の分析がまだまだ不十分である。

中国語の動詞が持つ局面のアスペクチュアルな意味や、動詞の中の局面と局面とのつながりを明確にするためには、それぞれの動詞とアスペクト諸形式との関わりを分析するのが有効な方法である。すなわち、動詞とアスペクト諸形式とが共起するか否か、また共起した後のアスペクチュアルな意味はどのようなものか、を分析することである。

また、马庆株 1981、荒川 1985、荒川 1986 がすでに指摘しているように、それぞれの動詞が持つ局面は一つだけとは限らない。陈平 1988 のように動詞を局面ごとに分類すると、一つの動詞がいくつかに分割され、多義的に見えてしまう。そこで、本稿では動詞を一つの単位として、それぞれの動詞の局面や局面間のつながりを分析した上で、動詞の種類を考察していきたい。

ただし、一つの動詞で複数の語彙的意味すなわち辞書的意味 (lexical meaning) を持つものがある。例えば、“走”という動詞には、「歩く」と「離れる」という二つの主な意味がある。この2種類の“走”のアスペクチュアル

な意味による分類は当然別々に考えなければならない<sup>1)</sup>。また、動詞のアスペクチュアルな意味は、動詞レベルで決められないものもあり、動詞句レベルや文レベルで考察しなければならないものもある<sup>2)</sup>。本論の分析では、基本的に動詞レベルにとどめておく。

方法としては、意味論において、Vendler 1967 による activity, accomplishment, achievement, state という局面の分類や、Comrie 1976 による punctual/durative, telic/atelic, state/dynamic situation という対立項の局面の分類を踏まえる。そして、動詞とアスペクト助詞“著”“了”などのアスペクトの形態論的表現 (morphological expression of aspect) とが共起した際の意味や、動詞と副詞“在”，時間補語などのアスペクトの統語論的な表現 (syntactic expression of aspect) とが共起した際の意味を、分析、整理した上で、中国語動詞を分類する。

## 1. 持続的的局面

動きのあり方を局面 (situation) という。動詞の表す現象が時間的幅をもって捉えられているかどうかにもまず注目すると、局面には大別して、時間的幅を持つものすなわち持続的 (durative) な局面と、時間的幅を持たないものすなわち非持続的な局面 (点的 (punctual) な局面) とがある。

中国語のそれぞれの動詞が持続を持つかどうかは、アスペクト助詞“著”を用いて調べることができる。すでに马庆株 1981 は、“著”を用いて中国語の動詞を持続動詞と非持続動詞とに分けている。ただし、马論文では“著”を用いる根拠を示していない。

実は、“著”は中国語において不完結相 (imperfective) を表現する形式の一つなのである。そして、不完結相は局面の内部の時間的幅 (internal interval) をとりあげる文法形式である。従って、不完結相は時間的幅を欠いている局

面と共起できないはずである<sup>3)</sup>。

ただし、実際に使用されている言語の中で、不完結相が点的局面と共起する言語もある。例えば、英語、フランス語、ロシア語、ナバホ語などは、不完結相が点的局面と共起した場合、その局面が成立する直前の予備段階 (preliminary stage) を表すという (Smith 1997, 75)。例えば、Smith 1997 では “She was winning the race.” という例をあげている。また、Comrie 1976 も、英語の “die” の進行相について言及し、“John is dying.” のような、局面が成立する直前の予備段階を “immediately preceding process” と呼んでいる (Comrie 1976, 47-48)。また、日本語の場合は、不完結相 (継続相シテイル) が点的局面と共起して、(例えば、「死んでいる」のように) 局面が成立した後の状態やありさまを表すことができる。

ただし、これらの言語において、たとえ不完結相が点的局面と共起したとしても、不完結相によって局面の内部をとりあげることはあくまでもできない。これは、不完結相が持続的な局面と共起した場合と較べてみれば、その違いは明らかである。例えば、“He is crying.” や「彼は泣いている。」のような持続的な局面の場合、不完結相によってとりあげているのは、局面の内部である。

中国語の場合、以上の言語とは異なり、点的局面は不完結相を用いることができない<sup>4)</sup>。例えば、“死” は点的局面をさしだす動詞である。“死” は“著” と共起することができず、“\*死著” ということはできない。このように、時間的幅を持たない局面は“著” と共起できず、“著” と共起できる局面は必ず時間的幅を持っていなければならない。すなわち、持続的局面でなければならない。だから、中国語では“著” と共起させることによって、局面の持続の有無を調べるのであり得るのである。

また、持続的局面といっても、その内実は多様なものがある。運動的 (dynamic) なものも、静的 (static) なものも、また、結果的 (resultative) なものもあり、そのいずれもが“著” と共起する。



例えば、例文(1)の“走”(歩く)は、運動的な持続的的局面を持つ動詞である。このような局面を過程の局面([過程]。[ ]内は略称。以下同じ。)と呼ぶ。

(1) 劉荃繼續往前走著。《赤 94》(劉荃は前に向かって歩き続けた。5)

また、例文(2)の“站”，(3)の“爱”は静的な持続的的局面を持つ動詞である。このような局面を静態持続の局面([静態持続])と名付ける。

(2) 就在那個四十五度的地方，小陶站著。《游 35》

(その四十五度の角度のところに、ちょうど小陶が立っていた。《デ 37》)

(3) “她，我告诉你，她也一直爱着你。”《空 46》

(「彼女はね、教えてやるよ、彼女もずっとあんたのことを愛していたんだ。)

さらに、例文(4)の“穿”は、“著”と共に起して結果的な持続的的局面を表す。このような局面を結果持続の局面([結果持続])と呼ぶ。

(4) 他脫下大衣，抖了兩下，交給余教授，他裏面卻穿著一件中國絲棉短襖。《冬 244-245》

(彼はコートを手で脱いで、一しきり振ってから余教授に手渡した。下には中国風の短い綿入れを着こんでいる。《ふ 30-31》)

このように、“著”はさまざまな持続的的局面と共に起する。ここで指摘しておきたいのは、“著”が持続的的局面と共に起した場合には、局面の始発点にも終結点にも触れず、持続だけを捉えるということである。つまり、例文(1)～(4)からもわかるとおり、それぞれの局面がいつ始まったのかいつ終わるのかは全く表現せず、局面が持続していることしか表さないのである。

また、“著”と共に起する局面が持続的的局面であることについては、時間補語を用いて検証することができる。持続(内部の時間的幅)を持っている局面であれば、時間補語と共に起して、その内部時間を取りあげることができる。一方、点的局面は、内部の時間的幅を欠いているため、時間補語と共に起しても内部時間を取りあげることができない。

例えば、前掲の例文(1)～(4)の“著”と共に起する動詞“走”“站”“爱”“穿”が、それぞれ時間補語と共に起した場合、“走了一天”“站了一個鐘頭”

“愛了三年”“穿了一上午”になる。いずれも、局面が続く期間すなわち内部時間を表すことができる。それに対し、“著”と共に起しない動詞が時間補語と共に起した場合、内部時間を表すことができず、局面が成立した後の経過時間しか表すことができない。例えば、例文(5)の“很多年”は死んだ後の経過時間を表す。すなわち、“死了很多年”は「何年間もずっと死んでいる」という意味ではなく、「死んだ後何年間も経った」という意味である。

(5) 他家老头死了很多年，部里一直要收回这套房子，他家孩子就是不搬。

《出 271》

(その家の親爺は死んで何年も経っていて、部はずっとこの家を回収しようとしていたが、その家の子供はどうしても出ていこうとしなかった。)

このように、局面に持続があるかどうかということについて、“著”と共に起するか否かの結果と、時間補語と共に起した場合の結果とは、一致している。

以下の章では、それぞれの局面について考察していきたい。

## 2. 過程の局面

[過程]は持続的 (durative) かつ運動的 (dynamic) な局面である。[過程]は、始発点 (initial point) と終結点 (final point) とその間の持続すなわち内部の時間的幅 (internal interval) によって構成される。“著”は [過程] と共に起して持続をとりあげ、進行中を表す。

また、[過程]は副詞“在”とも共に起する。“在”は持続的かつ運動的な局面と共に起して、不完結相の一つである進行相 (progressive) を表現するアスペクト形式である。[過程]は“在”と共に起して、(始発点も終結点も含まない) 持続だけをとりあげ、進行中を表す。それは、“著”と共に起した場合と同様である。例えば、次の例文(6)の“在哭”は、“哭”という局面の始発点や終結点には全く無関心で、内部の持続しか示さない。すなわち、“哭”という

局面がいつ始まったのかいつ終わるのかは全く表現せず、その局面が持続していることしか表さないのである。

(6) 回來妹妹在哭，原來多桑自作聰明，把「白日」用蠟筆塗成紅色，……

《多 53》

(帰ってきたら妹が泣いていた。父さんがよけいなことをして「白日」をクレヨンで赤く塗ってしまったのだった。……)

局面の始発点や終結点と関わるのは、アスペクト助詞“了”である。“了”は中国語において、完結相 (perfective) を表す文法形式の一つである<sup>6)</sup>。完結相“了”は、局面全体 (始発点, 持続, 終結点) をひとまとまりにしてとりあげ、局面の終わりを表す。

[過程] が“了”と共起する場合には、限界点 (terminal point) を持つかどうかによって、“了”との共起の仕方が異なる。そこで、[過程] を限界点があるものとないものとに分け、それぞれ 2.1 と 2.2 で論じる。また、2.3 で [結果持続] について論じる。

## 2.1. 有限過程の局面

この局面は、限界点 (terminal point) が [過程] の終結をなす局面である。アスペクチュアルな特徴は、持続的 (durative)、運動的 (dynamic)、有限的 (telic) ということである。これを有限過程の局面 ([有限過程]) と名付ける。

[有限過程] が“了”と共起した場合、次のような特徴がある。例えば、“過 (馬路)” (道を渡る) という局面で説明してみよう。“他在過馬路。/他過著馬路。” (彼は道を渡っているところだ。) という、局面の途中の時点においては、まだ“他過了馬路。” (彼は道を渡った。) ということはできない<sup>7)</sup>。“他過了馬路。”ということが成立するのは、彼が道を渡りきった時点である。すなわち、“了”によって限界点より以前の時点を取りあげることができず、限界点を含みこんだ [過程] の全体をひとまとまりにしてとりあげることし

かできない。つまり、このような局面は、限界点にいたるまでの任意の時点において終結点を設定することができず、限界点にならないと局面が終わりにならないのである。“了”で表すことができるのは、局面全体の終わりである。この点で2.2の〔無限過程〕とは異なり、“了”で局面が始まったことを表すことができない。また、“過了馬路”の時点で局面は自然に終わり、さらに道を渡り続けることができない。すなわち、〔有限過程〕は無限に延長することができず、限界点になると局面を終わらなければならない。例えば、次の例文(7)の“安排了”は手はずをととのえ終わった、という意味である。この場合はお見合いの手はずなのだが、お見合いの双方に連絡をしたりレストランを予約したりするなどの、手配をしている最中をとりあげる場合には、“安排著”や“在安排”という。

(7) 長馨竟自作主張，安排了<sup>一</sup>一切，由那同學的母親出面請客。《金174》

（長馨はついに自分の一存で手はずをととのえ、その友人の母親が表にたつて招待する形にした。《き81》）

この〔有限過程〕が時間補語と共に起した場合には二義が生じる。例えば、“過馬路過了十分鐘”の“十分鐘”は二義的である。一つは、前述したようにこの局面は持続的の局面なので、内部時間を表すこととなり、「十分間かかって道を渡った」という意味になる。

もう一つは、“十分鐘”で局面全体が終わった後の経過時間を表して、「道を渡り終わった後十分間経った」という意味になる。これは、このような局面は、あらかじめ限界点が設定され、限界点になると自然に終わるという性質を持っているからである。

## 2.2. 無限過程の局面

〔過程〕の中に限界点を含みこまない局面を、無限過程の局面（〔無限過程〕と名付ける。この局面のアスペクチュアルな特徴は、持続的（durative）、運

動的 (dynamic), 無限的 (atelic) ということである。この局面はあらかじめ設定された限界点がないので, [過程] 中の任意の時点で終わることができる。従って, 任意の時点において, 完結相“了”と共起することによって, その時点までの [過程] 全体をひとまとまりにして, 局面の終わりを表すことができる。例えば, 例文(8)である。

- (8) 收生婆來到, 告訴她還不到時候, 並且說了些要臨盆時的徵象。《略 240》  
 (やってきたお産婆さんは, まだまだと言い, 生まれるときはこうこうだからと説明して帰っていった。《口 310》)

またこの局面は, “了”によって始まりを表すこともできる。例えば, 例文(9)である。

- (9) 『啊? ——』老師把聲音揚得很高。『你的明天到底是什麼時候?』全班的小孩子都笑了。《蘋 147》  
 (「あ——?」先生は声を荒くした。「あなたのあしたはいつのこと」クラス中の子供たちが笑った。《り 97》)

ここの“笑了”は「笑い終わった」ではなく, 「笑い始めた」という意味である。従って, 例文(9)の後に, “十分鐘後, 小孩子們還在笑 / 笑著。”という文を続けることもできる。これは, “他在笑。 / 他笑著。”(彼は笑っている。)の時点において“他笑了。”(彼は笑った。)ということができるような局面である<sup>8)</sup>。この点で2.1の [有限過程] とは対照的である。すなわち, [無限過程] は, あらかじめ設定された限界点を持っていないので, 終結点を任意の時点に設定することができる。だから, 局面が終わったことも, 局面が始まったことも, 完結相“了”で表すことができるのである。

[過程] である限り, [有限過程] でも, [無限過程] でも, 不完結相の文法形式“著”“在”と共起する仕方は同様である。いずれも, (局面の始発点も終結点も含まない) 局面の内部の持続をとりあげ, 進行中を表す。例えば, 例文(10)の“養”は [無限過程] をさしだす動詞であり, “養着”は進行中を表す。



(10) 許多人家都養着鷄預備吃年飯，不像姚家北邊規矩，年菜沒有這一項。

《怨 130》

(多くの家では鶏を飼って年越しの食事に備えている。姚家では北方の習慣で年越しの食事の中にこの料理はなかった。)

また、次の例文(11)の“養了”は例文(10)の“養着”と同じ状況を表し、両者とも「[過程]の中にある」ことを表している。従って、例文(11)の“養了”は“養著”に言い換えることもできる。

(11) 母親早就替她養了十二隻鷄，等梅子月内時正補得著。《看 204》

ある日本語訳ではこの文を「母親は彼女のためにすでに鷄を十二羽飼っている。梅子がお産をするころには、ちょうど食べごろになるはずだ。」《う 187》と訳している。すなわち、“養了”が「飼っている」と訳されている。ただし、このように“了”によって「局面の中にある」ことを表現しうるのは、“了”で始まりを表すことができるような持続的的局面でなければならない。“了”で表すのは「持続的的局面が始まった」ということなので、「その局面はまだ終わらずに続いている」という意味を含んでいる。だから、「局面の中にある」ことを表すことができるのである。

もし、“了”でとりあげるのが局面の全体であれば、その局面がもう終わっていることを表すことになり、「局面の中にある」ことを表すことができなくなる。従って、“了”で局面全体しかとりあげることができない2.1の[有限過程]のような局面は、“了”によって「[過程]の中にある」ことを表すことができない。また、局面が持続的でなければ、局面の時間的幅は存在しないので、「局面の中にある」ことを表現しようがない。従って、点的局面もこのようなとりあげ方ができない。

このような“養了”と“養著/在養”との違いは、次の点にある。すなわち、アスペクチュアルな意味において、“養了”が始発点をとりあげるのに対し、“養著/在養”は始発点に触れず、持続しかとりあげない点である。従って、始発点をとりあげることができない文脈においては、「[過程]の中

にある」ということを“了”によって表すことができない。例えば、前掲の例文(1)の“走”も例文(6)の“哭”も〔無限過程〕をさしだす動詞であるが、“走著”や“在哭”を“走了”“哭了”に言い換えることはできない。もし言い換えたら、本来の文とアスペクチュアルな意味が異なってくる。すなわち、例文(1)の“繼續往前走著”を“繼續往前走了”にすると、「(止まった後にもう一度) 続けて前に向かって歩き始めた」という意味になる。例文(6)の“回來妹妹在哭”を“回來妹妹哭了”にすると、「帰ってきたら妹が泣きだした」という継起的な意味になる。

また、〔無限過程〕は持続的的局面なので、時間補語と共に起した場合、局面の内部時間を表す。例えば、例文(12)の“聊了兩個鐘頭”は「二時間話し合った」という意味である。

- (12) 余廣立來得晚一些，但前兩天羅雲星已經同他在『明星』聊了兩個鐘頭。《游 83》

(余広立は少し遅れてやってきたが、二日前すでに、羅雲星は彼と「明星」で二時間も話し合っていた。《デ 99》)

さらに、〔無限過程〕には限界点というあらかじめ設定された終結点がないので、2.1の「有限過程」とは異なり、時間補語と共に起して局面が終わった後の経過時間を表すことができない。

### 2.3. 有限結果の局面

前掲の例文(4)のような〔結果持続〕は、結果的な持続的局面である。“著”と共に起すが、“在”と共に起さないなので、実は静的 (static) な局面の一種である。ただ、この静的な局面は何かによってもたらされた結果である。そしてこの〔結果持続〕をもたらすのは、それに先行する〔過程〕である。すなわち、運動的な〔過程〕によって、静的な〔結果持続〕をもたらすのである。そこで、このような局面全体を〔過程〕の中の下位分類とする。

この先行する〔過程〕は、“了”と共に起した場合〔過程〕が始まったことを表すことができず、〔過程〕全体をひとまとまりにしてとりあげ、〔過程〕の終わりを表す。例えば、例文(13)の“寫了”と例文(14)の“開了燈”“開了門”がそうである。

- (13) 他抽出稿紙，鋪平，順手寫了一路盤旋在心頭的兩個字：『出發』。《游 32》

(原稿用紙を取り出し、広げて、すぐに頭を巡っている二文字をしたためた、「出發」と。《デ34》)

- (14) 老程開了燈，披着件破皮襖，開了門：「怎麼啦？祥子，三更半夜的！」《駱 142》

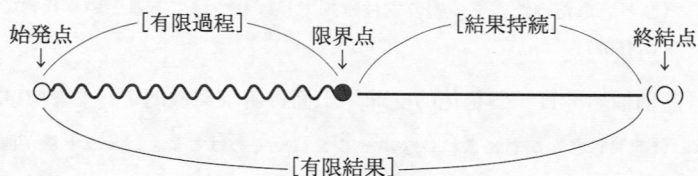
(程さんが燈をつけ、ぼろの皮の上着をはおって戸をあけた。「どうしたい、祥子、こんな真夜中に」《ロ 185》)

従って、このような〔過程〕は限界点を持つものであり、2.1の〔有限過程〕にあたる。そして、この〔有限過程〕が〔結果持続〕をもたらす。つまり、〔有限過程〕が終わった時点に変化し、結果が生じて、その結果が静的に持続している。この結果的な局面 (resultative) が〔結果持続〕である。また、〔有限過程〕が終わった時点 (限界点) は〔結果持続〕の始発点でもある。

ここでは、〔有限過程〕と〔結果持続〕という因果関係を持つ二つの局面を合わせ、全体を一つの大きな局面とみなし、有限結果の局面 (〔有限結果〕) と名付ける。〔有限結果〕のアスペクチュアルな特徴は、性質が異なる二つの局面によって構成されていることである。前半の〔有限過程〕は持続的 (durative) かつ運動的 (dynamic) かつ有限的 (telic) であり、後半の〔結果持続〕は持続的 (durative) かつ静的 (static) である。このことを図示すると、図1のようになる。

波線は運動的な局面を表し、直線は静的な局面を表す。また、●は限界点であり、〔有限過程〕に含まれている。終結点を括弧で括った理由は、終結

〔図1：有限結果の局面〕



点は運動的なので、静的な〔結果持続〕に含まれていないからである。その理由は、第3章の〔静態持続〕の終結点と同様であり、詳しくは第3章で述べることにしたい。

〔有限結果〕は、〔有限過程〕という運動的な局面と、〔結果持続〕という静的な局面とによって構成された局面である。だから、“著”と共起することによって、前掲の例文(4)のように〔結果持続〕の持続をとりあげることができるほか、〔有限過程〕の持続をとりあげることができる。例えば、“她穿著和服。”(彼女は着物を着ている。)という文は二義的である。それが、どちらの意味になるかはコンテキスト (context) によって決められる。

また例えば、次の例文(15)(16)の“著 / 着”は〔有限過程〕の持続をとりあげ、進行中を表す。

- (15) 眼看著孫全貴蹲在地下，用蕪繩把缸身捆起來，左一道右一道捆著。

《赤 76》

(手を拱いて見ているうちに、孫全貴は地面にうずくまり、縄で甕をしぼり始めた。左へ右へと縛っていく。)

- (16) 玲玲就用粉蠟筆畫着，把每個字母都畫成最漂亮的花體字，又倒過練習簿來給文雄看。《前 220-221》

(玲玲はクレヨンで画いている。一字一字のアルファベットをととても美しい花文字にした。そしてもう一度練習帳をひっくりかえして文雄に見せた。)

それに対し、例文(17)(18)の“著 / 着”は〔結果持続〕の持続をとりあげ、状態の持続を表す。

- (17) 一輛極破的車，……車棚子的支棍兒用蕪繩兒纏著。《駱 122》

(ひどい車だった。……幌の支柱は縄でしばりつけてあるという代物である。  
《ロ 160》)

- (18) 「龍伯伯給你買一個花花的皮球，上面畫著噴氣機的……」《前 214》

(「龍おじさんが君にきれいなボールを買ってあげるよ。ジェット機が画いてあるのをね……」)

このように [有限結果] が“著”と共起した場合は、その中の [有限過程] の持続をとりあげることでもできるし、[結果持続] の持続をとりあげることでもできる。

ところが、龔千炎 1995 では、「兼属状态动词的動作动词不能带“着”，因为能带“着”就不是動作动词而是状态动词了」(p.22) と述べている。すなわち、本稿の用語を用いて説明すると、[有限結果] をさしだす動詞は、[有限過程] を捉える場合には“著”と共起せず、“著”と共起できるのは [結果持続] だけである、ということになる。しかし、例文(15)(16)からも明らかのように、[有限過程] も“著”と共起することができるのである。

[有限結果] が“在”と共起する仕方 (例えば“在穿”) は、“著”と共起する仕方とは異なる。この節の最初にも触れたように、[結果持続] は静的な局面なので、“在”と共起しない。しかし [有限過程] は運動的な局面なので、“在”と共起する。つまり、[有限過程] は“在”とも“著”とも共起して進行中の意味になるのに対し、[結果持続] は“著”とだけ共起して、状態の持続の意味になる。

また、[有限結果] が時間補語と共起した場合も二義が生じる。例えば、“她穿和服穿了三個小時。”(彼女は3時間着物を着た。)という文がある。この文には、限界点までの [有限過程] の時間 (彼女は3時間かかって着物を着た。) と、[結果持続] の時間 (彼女は3時間着物を身にまとっていた。) という二通りの意味がありうる。[有限過程] も [結果持続] も持続的的局面なので、どちらも時間補語によってそれぞれの内部時間をとりあげることができる。



なお、同様な現象は日本語でも見られる (森山 1988, 144-145)。森山 1988 の用語を借りると、前者の「3時間かかって着物を着た」の「3時間」は結果をもたらすために働く期間であり、「稼働期間」と呼ぶことができる。それに対し、後者の「3時間着物を身にまとっていた」の「3時間」は結果の持続期間であり、「単純期間」と呼ぶことができる。

“了”で〔有限過程〕が終わったこと (すなわち〔結果持続〕が始まったこと) を表すことは前述したが、次の例文(19)のように、“了”で「〔結果持続〕の中にある」ということを表すこともできる。

- (19) 我們去把李彤接到了 Central Park, 她穿了一襲雲紅紗的晚禮服, 相當瀟灑, ……。《謫 262》

(私たちは李彤を出迎えてセントラルパークまで連れていった。彼女は茜色の薄絹のイブニングドレスを着ていて、とてもかっこよかった。……)

“了”で「〔結果持続〕の中にある」ことを表せるのは、〔結果持続〕が持続的な局面であり、しかも、“了”で〔結果持続〕が始まったことを表せるからである。その理由は 2.2 の例文(11)の“養了”の問題と同様であり、この例文(19)の場合も、“了”を“著”に言い換えることができる。

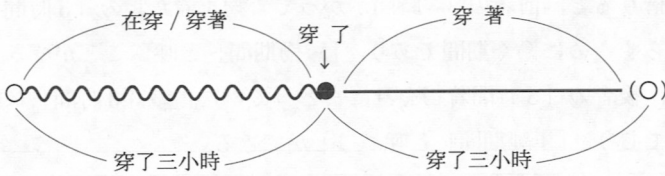
しかしその逆に、〔結果持続〕の持続をとりあげる“著”が、全て“了”に言い換えられるとは限らない。〔結果持続〕の始発点をとりあげることができないコンテキストにおいては、“了”を用いることができないのである。例えば、次の例文(20)の“開著門”は、“開了門”に言い換えることができない。

- (20) 劉荃覺得很奇怪, 這時倒還開著門。《赤 14》

(劉荃は変だと思った。こんな時間にまだ開いている。)

以上に述べてきた、〔有限結果〕とアスペクトの諸文法形式との共起関係を、“穿”を例として示すと、図 2 (次頁) のようになる。

[圖2]



### 3. 靜態持續の局面

[靜態持續] のアスペクチュアルな特徴は、靜的 (static) かつ持續的 (durative) ということである。[靜態持續] は靜的なので“在”と共起しない。しかし、持續的なので“著”とは共起する。その場合、持續をとりあげ、状態の持續を表す。例えば、前掲の例文(2)の“站著”，例文(3)の“爱着”も、次の例文(2)~(4)もそうである。

- (2) 我們沉默著，或許是想到方才的畫面而覺得內疚、罪惡。《多70》

(私たちは無言だった。さっきの場面が頭に浮かんで、やましさ、罪悪感を感じていたのかもしれない。)

- (2) 和自己的男人挨着肩膀，覺得很平安。《留14》

(自分の男と肩を並べていると、心が安まる。《る115》)

- (2) 可是，當時的情況，相當混亂，……同志們之間，也瀰漫着一種悲憤、沮喪的情緒。《杜189-190》

(しかし、当時の状況は相当混乱していた。……同志の間にも、ある悲憤と落胆の気持ちが広がっていた。)

- (2) 無論如何，我想，熱鬧總是好的，尤其是還着心願的篤信着天主無限慈恩的二姊。《長76》

(どっちにしろ、にぎやかなことはいいことだ、と私は思った。特に、キリス

トの限りない恩恵を篤く信じて、願いをかなえようとした二姐にとっては。）

〔静態持続〕も〔過程〕もともに持続を持っている。しかし、両者の持続の仕方は異なる。前者は静的な持続であり、後者は運動的な持続である。静的持続は、局面が持続するために運動を起こさなくても、持続するのである。すなわち、持続が自動的であり、何かによって変化させない限り、ずっと自動的に続くのである。それに対し、運動的持続は、局面が持続するためには運動を絶えず起こし続けなければならない。そうしなければ、局面が止まってしまう。このような局面は自動的に持続しない。例えば、例文(1)の“走著”がそうである。

しかし、静的な局面でも運動的な局面でも、局面を始めたり終わらせたりするには、運動を起こさなければならない。すなわち、局面の始発点や終結点は、静的ではありえず、常に運動的である。〔過程〕の場合は局面自体が運動的な局面なので、始発点も終結点も局面の中に含まれている。それに対し、〔静態持続〕は静的な局面なので、運動的な始発点と終結点とはその局面の中に含まれない。

しかし、〔静態持続〕は始めることや終わることができないというわけではない。ただ、局面を始めたり終わらせたりするには、何らかの変化を起こし、別の運動的な局面を作らなければならないのである。

運動的な局面を作る一つの形式として“了”があげられる。“了”が〔静態持続〕と共に起した場合、変化を起こし、運動的な始発点をとりあげることになる。例えば、次の例文(25)~(27)がそうである。

(25) 祥子病了。大雑院裏の病人並不止於他一個。《駱 231》

（祥子は病気になった。そして、長屋の病人は彼ひとりではなかった。《口 298》）

(26) 越想他越高興，他眞想高聲的唱幾句什麼，教世人都聽到這凱歌——祥子又活了，祥子勝利了！《駱 272》

（考えれば考えるほど彼は嬉しくなり、声をかぎりに歌って、世間の人々にこ

の凱歌を聞かせてやりたかった。祥子は生きかえったのだ、祥子は勝ったのだぞ、と。《口 347》)

- (27) 「你上這兒來住幾天，躲避躲避。總算我們怕了他們。然後再去疏通，也許還得花上倆錢。面子足，錢到手，你再回家也就沒事了。」《駱 146》

(「わしの所で数日隠れていて、そのあとおもむろに連絡をつけ、あるいは多少金をまかなぎやならんかもしれないが、彼らだって顔が立ち、金が手に入れば、きみは家へ帰ってもう何も起こりはしないよ」《ル 181》)

これらの〔静態持続〕は、“了”と共起して、局面全体の終わりを表しているわけではない。すなわち、「局面全体をひとまとまりにしてとりあげてその局面の終わりを表す」という“了”本来が持っている完結相の意味は、この局面において表すことができない。つまり、完結相“了”の〔静態持続〕における働きは始動であり、始発点をとりあげ、局面を始めることなのである。

〔静態持続〕は持続的の局面であり、しかも“了”で局面が始まったことを表すことができる。だから、この局面においても、2.2の例文(11)の“養了”や2.3の例文(19)の“穿了”と同様に、“了”によって「局面の中にある」ことを表せる場合がある。例えば、次の例文(28)の“坐了人”がそうである。この例文の“坐了人”は“坐著人”に言い換えることができる。

- (28) 屋子裏面，三把藤圈椅上都坐了人，屋主人胡浩、常來的林盛隆和一位稀客——余廣立。《游 147》

(部屋のなかに三脚ある藤椅子には、すべて人が腰掛けていた。この家の主胡浩と、よく来る林盛隆と、あとひとり珍しい客——余広立だった。《デ 183》)

しかし、「〔静態持続〕の中にある」ことを常に“了”によって表せるというわけではない。例えば、例文(21)の“我們沉默著”を“我們沉默了”に言い換えると、「私たちは(話していたが、)無言になった」のように、“沉默”という局面が始まったことを表すことになり、アスペクチュアルな意味が変わってしまう。

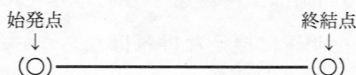
〔静態持続〕の終わりを表す方法としては、時間補語と共に起することにより、この局面をひとまとまりにしてとりあげることができる。例えば例文(29)は、時間補語によって局面の終結の時点が示され、局面の続いた期間すなわち内部時間を表している。

- (29) 我在臺大醫院住了五個月，他們又給我開刀，又給我電療，東搞西搞，愈搞愈糟，索性癱掉了。《冬 255》

(台大病院に五か月入院した。手術もしたし、電気療法もやった。あれこれやったが、やればやるほど悪くなるので、いっそしびれたままにしまったんだ。《ふ 42》)

以上に述べてきた〔静態持続〕を図示すると、以下のようになる。

〔図 3：静態持続の局面〕



始発点と終結点を括弧で括ったのは、この両点は運動的なので、本来静的な〔静態持続〕に含まれていないからである。2.3〔有限結果〕の後半の〔結果持続〕の図1の終結点を括弧で括ったのも同様の理由である。〔結果持続〕も静的な局面なので、運動的な始発点と終結点は〔結果持続〕に含まれていない。始発点は、前半の運動的な局面である〔有限過程〕に含まれているが、本来〔結果持続〕には含まれていない。そこで、〔結果持続〕の終結点を括弧で括って、〔結果持続〕に含まれていないことを示した。

〔結果持続〕と〔静態持続〕とのアスペクチュアルな特徴の違いは、次の点にある。すなわち、〔結果持続〕は、それに先行する〔有限過程〕がもたらした結果的局面であるのに対し、〔静態持続〕は、〔過程〕によってもたらされた結果的局面ではないことである。

〔静態持続〕をさしだす動詞の中には、“站”“沈黙”“瀟灑”などの動詞と“愛”“喜歡”“怕”のような感情や心理的な動きを表す動詞とがある。いず



れの局面も、アスペクト的には「静態持続」である。ただし、異なる点もある。例えば、持続的局面をとりあげる際に“站”などが必ず“著”と共起するのに対し、“愛”などは“著”と共起することもあれば、零形式も多く用いられる。

そもそも、アスペクトとは、局面の内的な時間構成を捉える仕方である。例えば、完結相を用いると、局面をひとまとまりにして捉えることになる。不完結相を用いると、局面の始発点にも終結点にも触れずに、その間の持続を捉えることになる。これらのアスペクト形式を用いることによって、局面の内的な時間構成の捉え方がはっきりと表面に出てくる。

従って、“著”という不完結相のアスペクト形式を用いた場合、局面の内的な時間構成の捉え方として、局面の中の持続を捉えているということが明確になる。“站”などの動詞は、持続をとりあげるためには、“著”を用いることによってその持続を明確に捉えなければならない。

一方、感情や心理的な動きを表す動詞も、前掲の例文(3)や次の例文(30)のように、“著”を用いて持続を明確に捉えることがある。

(30) 在這一刹那，她是真心愛著孩子的。《連46》

(この瞬間には、彼女は心から子供を愛していた。)

ただし、このような動詞がアスペクト形式を用いない時（零形式の場合）は、局面の内的な時間構成の捉え方があいまいになる。例えば、次の例文(31)(32)である。

(31) 上海人自然是喜歡上海人，所以同鄉的小姐們在那邊聽說是很受歡迎。

《傾201》

(上海人はやっぱり上海の人がいいから、同郷のお嬢さんはとてももてはやされるそうですわ。《け182-183》)

(32) 我还是对张欣说了：“我愛她。”《空46》

(私はやはり張欣にいった。「私は彼女を愛していた。」)

しかし、これらの場合も、やはり局面が持続的であることを表す。ただ、

“著”を用いた場合の方が、局面の内的な時間構成の捉え方がより明白になるのである。

#### 4. 点的局面

この局面は時間的幅(持続)を持たない局面であり、これを点的局面と呼ぶ。点的局面のアスペクチュアルな特徴は、点的(punctual)でかつ運動的(dynamic)ということである。

中国語動詞の点的局面は不完結相にならない。すなわち、不完結相の文法形式“著”“在”と共起しないのである。また、時間補語と共起した場合、局面が成立した後の経過時間を表す。例えば、前掲の例文(5)の“死了很多年”は「死んでから何年も経った」という意味である。

点的局面が成立する一時点をとりあげるのに、完結相のアスペクト助詞“了”を用いる。例えば、例文(33)の“斷了氣”と例文(34)の“出了門”である。

(33) 虎妞在夜裏十二點，帶着個死孩子，斷了氣。《駱 244》

(虎妞はその真夜中、腹の子とともに息を引きとった。《ロ 314》)

(34) 十五分鐘以後，羅雲星淋浴完畢，換了一套輕鬆的衣服，開著他心愛的紅色 Alfa Romeo，出了門。《游 111》

(羅雲星はシャワーを浴び、ラフな恰好に着換え、十五分後には愛車の赤い Alfa Romeo で出かけた。《デ 134》)

日本語では、不完結相(継続相)シテイル形は点的局面と共起することができる。これは英語、ロシア語などにおいて、不完結相が点的局面と共起して、局面が成立する直前の予備段階を表すのと異なる。例えば、「このネズミは死んでいる。」という日本語の文では、不完結相を用いて、点的局面が成立した後の状態やありさまを表している。

中国語では、不完結相は点的局面と共起しないので、これに対応するような中国語の表現は存在しない。「このネズミは死んでいる。」という文を中国語に訳すと、“這隻老鼠死了。”となる。すなわち、完結相“了”を用いることにより、点的局面が成立した一時点をとりあげることによって表す。例えば、次の例文(35)の“結了婚”は日本語の「結婚している」と対応している。

- (35) 敦鳳曾經有過一個時期對楊太太這些事很感到興趣，現在她本身的情形與前不同了，已是安然地結了婚，對於婚姻外的關係不由得換了一副嚴厲的眼光。《留 27》

(敦鳳は一時期，楊夫人のこの種のことにとっても興味をもっていた。しかしいまは自分自身の状況もかわり，ちゃんと結婚もしているので，不倫の關係に対しては知らぬ間に厳しい視線に変わっている。《る 143》)

この点についての中国語と日本語の考え方の違いは，次のように考えられる。中国語において，点的局面はあくまでも運動的 (dynamic) であり，静的な状態 (state) がない。それに対し日本語は，点的局面でも静的な状態が存在する，という考え方なのである。

点的局面は時間的幅を持たない局面であるが，複数の点的局面が連続して起こると，一つの局面として捉えられるようになり，時間的幅ができて，点的局面ではなくなる。

例えば，“前進”“後退”“移動”などの移動を表す動詞や，“變”“變化”“消失”“形成”“恢復”などの変化の意味を持つ動詞は，一回の場合は一回相 (semelfactive) であり，本来は点的局面である。しかし，複数回の全体として捉えることもできる。これを反復相 (iterative) という<sup>9)</sup>。この場合，過程化され，[過程] とみなすことができ，いずれも“在”“著”と共起して進行中を表すことになる。

“改”の辞書の意味 (lexical meaning) は一つだけではない。「変える，直す」というような意味と，「変わる，直る」というような意味がある。前者を捉える場合は，[過程] になる。後者を捉える場合は，さらに一回相と反復相

とに分けて別々に考えなければならない。一回相の場合は点的局面であり、反復相は[過程]になる。このような動詞は他にもあり、例えば、“改變”“增加”“減少”などがそうである。

また、点的局面であるかどうかについて、研究者によって意見が分かれる一群の動詞がある。それは、“認識”“知道”“懂”“曉得”“明白”のような認識の意味を持つ動詞である。例えば、ヤーホントフ 1957 は「非動作動詞」として扱い（日本語版 p.127）、陳平 1988 や龔千炎 1995 は state として扱い、みなこれらの動詞を静的な動詞とみなしている。それに対し、馬慶株 1981 は“非持續性動詞”として扱い、持續を持たない動詞とみなしている。郭銳 1993 は“前限結構”として扱い、運動的かつ持續的な動詞とみなしている。また、Smith 1997 では、“明白”を“Achievement”として扱い、運動的かつ点的な動詞とみなすが（p.291）、“知道（了）”を“Stative”として扱い、静的かつ持續的な動詞とみなしている（p.292）。この類の動詞の分類については、以上のように議論が分かれている。

この類の動詞は、アスペクト助詞“著”や副詞“在”と共起できない。また、アスペクト助詞“了”と共起する場合もあるし、アスペクト形式を用いない場合もある。“了”と共起した場合は、例えば、例文(36)のように、点的局面が成立した一時点をとりあげた、運動的な捉え方になる。これは、“結婚”のような明らかに点的局面を有する動詞が、“了”と共起して“結了婚”となった場合と、同じアスペクチュアルな意味を表している。

(36) 就是那一個時期，他認識了那個長得一點也不哲學的胡浩。《游 34》

（ちょうどこのようにときに、あの哲学的でない顔をした胡浩と知り合ったのだった。《デ 36》）

それに対し、アスペクト形式を用いない場合は、例文(37)のように運動的かつ点的な意味を表すこともあり、例文(38)のように静的かつ持續的な意味を表すこともある。

(37) 認識莫老，是我這幾年來的大收穫。《蝸 40》

(莫老と知り合ったことは、この数年来の私の大きな収穫であった。)

(38) 就把那薩黑美妮燒了灰，流蘇也認識她。《傾 213》

(たといあのサフィニが焼かれて灰になってしまっても、流蘇が彼女を見まわがうことはないだろう。《け 210-211》)

すなわち、この類の動詞のアスペクチュアルな意味は実は二義的であり、だからこそ、このような動詞は研究者によって分類が異なるのである。しかし、アスペクトの文法形式を重視する本論の立場としては、この類の動詞は不完結相のアスペクト助詞“著”と共起できないという点で、点的局面をさしだす動詞とする。

また、これらの動詞が時間補語と共起した場合と、第3章の〔静態持続〕が時間補語と共起した場合とでは、アスペクチュアルな意味が異なる。例えば、“我認識了他三年。”と“我愛了他三年。”という二つの文を較べてみれば、その違いは明らかである。前者のアスペクチュアルな意味は、「知り合ってから3年経った」という、局面が成立した後の経過時間を表す。それに対し、後者のアスペクチュアルな意味は、「愛してから3年経った」という意味ではなく、「3年間愛しつづけた」という意味であり、それは局面が続いた期間を表す。このことから、認識の意味を持つ動詞は〔静態持続〕というよりも、点的局面をさしだす動詞に分類するのが適当であろう。

## 5. アスペクチュアルな意味による 動詞の分類

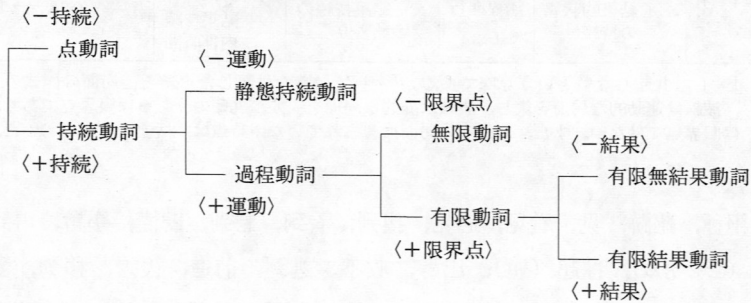
次に、以上の分析に基づいて中国語の動詞を分類する。

まず、点的局面をさしだす動詞を「点動詞」とし、持続的的局面をさしだす動詞を「持続動詞」とする。そして、「持続動詞」を二つに分け、〔静態持続〕をさしだす動詞を「静態持続動詞」とし、〔過程〕をさしだす動詞を



「過程動詞」とする。また「過程動詞」を二つに分け、[無限過程]をさしだす動詞を「無限動詞」とし、限界点を有する動詞を「有限動詞」とする。さらに、[結果持続]を持たない「有限動詞」を「有限無結果動詞」とし、[結果持続]を持つ「有限動詞」と区別する。後者は、すなわち[有限結果]をさしだす動詞であり、「有限結果動詞」とする。以上のことを図式化すると図4のようになる。

〔図4：中国語動詞のアスペクチュアルな分類〕



また、それぞれの種類の動詞が、アスペクト助詞“著”“了”，副詞“在”，時間補語と共に起した場合のアスペクトの意味、及び各級の動詞の局面の図式を表1(次頁)で示しておく。

最後に、それぞれの類の動詞の例をあげる。

#### a. 点動詞

死，歿，斷氣，入土，出生，結婚，離婚，到，離開，回來，失蹤，暈倒，倒(店)，取消，退休，消滅，燒焦，成，成功，痊癒，睡著，破案，抓到，(雨)停，停止，停住，開除，記過，留級，落榜，上榜，畢業，就業，過時，下班，免職，失望，吹(だめになる)，丟(紛失する)，放棄，忘，忘記，開始，結束，來，去，出來，走(離れる)，中(獎)，出門，進門，出國，回國，停擺，脫手，著涼，成家，遭，罹難，出事，嚇(一跳)，吃(一驚)，落空，窒

[表1：各類中国語動詞とアスペクト諸形式との対応表]

	著	在	了	時間補語	局面の図式
点動詞	×	×	成立	経過時間	○
静態持続動詞	状態の持続	×	始まり	内部時間	(○)————(○)
無限動詞	過程進行	過程進行	始まり/終わり	内部時間	〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰
有限無結果動詞	過程進行	過程進行	終わり	内部時間/ 経過時間	〰〰〰〰〰〰〰〰●
有限結果動詞	過程進行/ 結果的狀態の持続	過程進行	過程の終わり= 結果持続の始まり	有限過程/ 内部時間/ 結果持続 内部時間	〰〰〰〰●————(○)

「×」は共起しないという意味である。「/」で二義を併記した。また、局面の図式のうち、波線は運動的な局面を表し、直線は静的な局面を表す。丸印のうち●は限界点であり、○は限界点ではない。また、本来その局面に含まれていない時点は、括弧に入れておいた。

息，絶種，絶跡，見，看見，遇見，找到，看到，聽到，聽懂，學會，得到，開口（話をする），擡起（頭），出嫁，收下，逃到，前進，後退，移動，變，變化，消失，形成，恢復，改，改變，增加，減少，認識，知道，懂，明白，曉得

### b. 静態持続動詞

站，坐，躺，蹲，跪，住，待，活，盤踞，望，漾，捧，荷，叨（菸），覆，懸，醒，仰，愣，依，靠，歇，守，患，病，懷孕，存在，暴露（青筋），閉（眼），眯，挨（そばに寄る），立，矗立，佔，佔領，佔據，聚，馱，綴，餓，沈默，當（…を前に），瀟漫，映，照，向，沿，包含，含，溢，脹，夾雜，拌雜，混（混ざる），揉合，抱（心に抱く），懷，固執，愛，喜歡，相信，篤信，信任，信賴，尊敬，重視，怕，懼怕，愛護，討厭，恨，順從

### c. 無限動詞

走（歩く），跑，飛，跳，散步，逛，游，爬，爬行，笑，微笑，嘲笑，哭，

顫抖, 發抖, 蛀牙, 拍打, 學習, 養, 睡, 睡覺, 休息, 抱 (赤ん坊を抱く), 擁抱, 忍耐, 下 (雨), 追, 用, 躲, 玩, 想 (考える), 考慮, 思考, 幫忙, 要求, 要 (要求する), 喘, 繼續, 騎, 駕駛, 掙扎, 工作, 聊天, 訪問, 等, 爭論, 爭執, 爭, 歎氣, 催, 流, 讀, 唸, 看, 說, 談, 講, 搭訕, 胡扯, 聽, 問, 吃, 喝, 吸, 抽 (菸), 嚼, 叫 (叫ぶ), 喊, 嚷, 唱, 哼 (歌), 跳舞, 轉, 滾, 搖, 搬, 踩, 教, 洗, 吻, 打, 罵, 吵, 演, 響, 擦, 攻擊, 鼓掌, 按 (鈴), 敲, 推, 翻, 澆, 呼吸, 運動, 逃, 流浪, 旅行, 餵, 抱怨, 罷工, 戰爭, 捧 (ひいきにする), 欺負, 陪, 燒, 吹 (風), 放映, 打擾, 幹擾, 盤算, 打折, 靜坐, 絕食

#### d. 有限無結果動詞

過 (馬路), 說服, 矯正, 邀, 搬家, 改良, 卸妝, 交換, 校正, 鞏固, 通過 (隧道), 拓寬, 分析, 歸納, 殺 (人), 偷, 買, 賣, 折, 摘, 拔, 拆除, 降 (旗), 建立, 簽 (約), 組織, 生 (産む), 抓 (犯人), 收拾, 安排, 處理, 算命, 測字, 分家, 說明, 選, 作曲, 編輯, 接生

#### e. 有限結果動詞

穿, 戴, 開 (門), 關 (門), 掛, 包, 裹, 網, 綁, 鎖, 晾, 貼, 釘, 擺, 放, 種, 殺 (雞), 煮 (飯), 炒 (菜), 扔, 剪 (頭髮), 灑 (香水), 蓋, 借 (借りる), 準備 (行李), 寫, 畫, 塗, 抹 (口紅), 化妝, 燙 (頭髮), 雕, 刻, 挖 (洞), 埋, 記載, 記錄, 印, 封, 做 (記號), 簽 (名), 打 (圈), 題 (字), 盛 (飯), 裝 (可樂), 丟 (投げる, 捨てる), 排列, 陳列, 搭 (營帳), 鋪 (牀), 疊, 繫, 繡, 縫, 鑲, 扣 (鈕釦), 刺青, 點 (火), 升 (旗), 降 (半旗), 存, 蓋章

## 6. おわりに

本論は、中国語動詞がアスペクト諸形式と共起した際のアスペク的な意味によって、中国語動詞のアスペクチュアルな意味について分析し、動詞を分類した。

ただし、本論の主旨はアスペクト性を持つ中国語動詞を分析することであるため、アスペクト諸形式と共起しない動詞、例えば、コピュラ (copula) 動詞 (“是” など)、存在を表す動詞 (“在”) などは分析対象としなかった。これらの動詞については稿を改めて論じることとしたい。

### 〔注〕

- 1) ただし、これは陈平 1988 の分類とは異なる。陈平 1988 は一つの語彙的意味の動詞でも局面ごとに 2 種類 (以上) に分類することが多い。例えば、“穿” (服を着る) という動詞を state, activity, accomplishment の 3 種類に分類している。なお、中国語部分の表記は基本的に繁体字を用いるが、引用する論文や用例などの字体については、原文どおりに表記する。
- 2) 例えば、“看” は本来無限動詞 (後述) である。“看窗外風景” という動詞句は、限界点が設定されていないため、この場合の“看” は本来の無限動詞のアスペクチュアルな意味を表す。それに対し、“看一場電影” という動詞句は限界点が設定されているため、この場合の“看” は、有限無結果動詞 (後述) のアスペクチュアルな意味を表すようになる。
- 3) “From the definition of imperfectivity, however, it follows that imperfective forms cannot be used to refer to situations lacking internal structure.” (Comrie 1976, 26).
- 4) “English, French, Russian and Navajo have imperfectives of Achievements, whereas Chinese does not.” (Smith 1997, 75). “Only durative situations are relevant, since instantaneous events never allow the imperfective in Mandarin.” (Smith 1997, 274).
- 5) 拙訳。以下《 》で出典を注記しない日本語訳は全て拙訳である。なお、例文の該当箇所引いた下線は筆者によるものである。以下同じ。

- 6) 中国語の完結相の文法形式には、その他にアスペクト助詞“過”がある。
- 7) Comrie 1976, 45 所引の Klein, H.G. 1974. *Tempus, Aspekt, Aktionsart*. Tübingen: Niemeyer. による telic と atelic を区別する方法を用いた。
- 8) 同上。
- 9) “semelfactive” “iterative” という用語とその定義は Comrie 1976 による。「一回相」「反復相」は山田 1988 の訳語である。

〔参考文献〕

- 荒川清秀 1985. 「“着”と動詞の類」(『中国語』1985年7月, 大修館書店, 所収)
- 1986. 「中国語動詞の意味における段階性」(『中国語』1986年9月, 大修館書店, 所収)
- 陈 平 1988. 「论现代汉语时间系统的三元结构」(『中国语文』1988(6) 所収)
- Comrie, Bernard. 1976. *Aspect*. Cambridge: Cambridge University Press. (日本語版: 山田小枝訳 1988. 『アスペクト』, 東京: むぎ書房)
- 郭 锐 1993. 「汉语动词的过程结构」(『中国语文』1993(6) 所収)
- 龚 千 炎 1995. 『汉语的时相时制时态』(北京: 商务印书馆)
- 马 庆 株 1981. 「时量宾语和动词的类」(『中国语文』1981(2) 所収)
- 森山卓郎 1988. 「アスペクトの類型」(森山卓郎『日本語動詞述語文の研究』, Pp.138-173, 東京: 明治書院, 所収)
- Smith, Carlota S. 1997. *The Parameter of Aspect*. Second ed. Dordrecht: Kluwer Academic Publishers.
- Vendler, Zeno. 1967. 'Verbs and Times'. In Z. Vendler, *Linguistics in Philosophy*. Ithaca, New York: Cornell University Press. Pp.97-109.
- Яхонтов, Сергей Е. (ヤーホントフ, С. Е.) 1957. 橋本萬太郎訳 1987. 『中国語動詞の研究』(東京: 白帝社)

〔用例出典〕

\* 《 》内は略号と頁数。

- 冬: 白 先 勇 1970 「冬夜」(『臺北人』, 1983 爾雅出版社, 所収)
- 謫: ——— 1965 「謫仙記」(『寂寞的十七歳』, 1989 允晨文化出版, 所収)
- 看: 黄 春 明 1967 「看海的日子」(『青番公的故事』, 1985 皇冠文學出版, 所収)
- 蘋: ——— 1972 「蘋果的滋味」(『籬』, 1985 皇冠文學出版, 所収)
- 駱: 老 舍 1937 『駱駝祥子』(1991 金楓出版)
- 游: 劉 大 任 1990 『浮游群落』(1997 皇冠文學出版)
- 前: ——— 「前團總龍公家一日記」(『杜鵑啼血』, 1990 洪範書店, 所収)



- 長：劉大任「長廊三號」(同上所収)  
 杜：——「杜鵑啼血」(同上所収)  
 蛹：——「蛹」(同上所収)  
 空：王朔「空中小姐」(『王朔文集 純情卷』, 1992 第2版, 華藝出版社, 所収)  
 出：——「浮出海面」(同上所収)  
 多：吳念真 1994『多桑』(麥田出版)  
 金：張愛玲 1943「金鎖記」(『傾城之戀』, 1991 皇冠文學出版, 所収)  
 傾：—— 1943「傾城之戀」(同上所収)  
 留：—— 1945「留情」(同上所収)  
 連：—— 1944「連環套」(『張看』, 1991 皇冠文學出版, 所収)  
 赤：—— 1954『赤地之戀』(1991 皇冠文學出版)  
 怨：—— 1966『怨女』(1991 皇冠文學出版)  
 ふ：白先勇著, 松永正義訳「冬の夜」(松永正義ほか訳『彩鳳の夢』, 1984 研文出版, 所収)  
 う：黄春明著, 田中宏訳「海を見つめる日」(黄春明著, 田中宏・福田桂二訳『さよなら・再見』, 1979 めこん, 所収)  
 り：——著, 福田桂二訳「りんごの味」(同上所収)  
 ル：老舍著, 中山高志訳『駱駝祥子(ルオトゥオシヤンズ)』(1991 白帝社)  
 ロ：——著, 立間祥介訳『駱駝祥子(ロートシヤンツ)』(1980 岩波文庫)  
 デ：劉大任著, 岡崎郁子訳『デイゴ燃ゆ』(1991 研文出版)  
 き：張愛玲著, 池上貞子訳「金鎖記」(『傾城の恋』, 1995 平凡社, 所収)  
 け：——著, ——訳「傾城の恋」(同上所収)  
 る：——著, ——訳「留情」(同上所収)